



- 近鉄大和北大寺駅から平城宮跡への所要時間**
- 大極殿 . . . . . 徒歩20分(1.2km)
  - 朱雀門 . . . . . 徒歩25分(1.8km)
- 近鉄西ノ京駅から世界遺産登録寺院への所要時間**
- 薬師寺 . . . . . 徒歩2分
  - 唐招提寺 . . . . . 徒歩8分

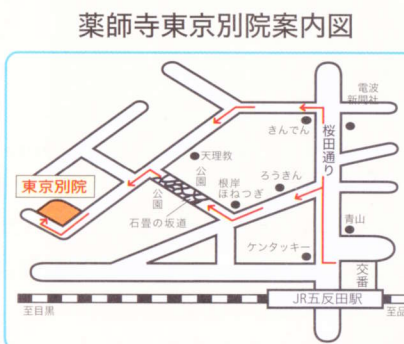
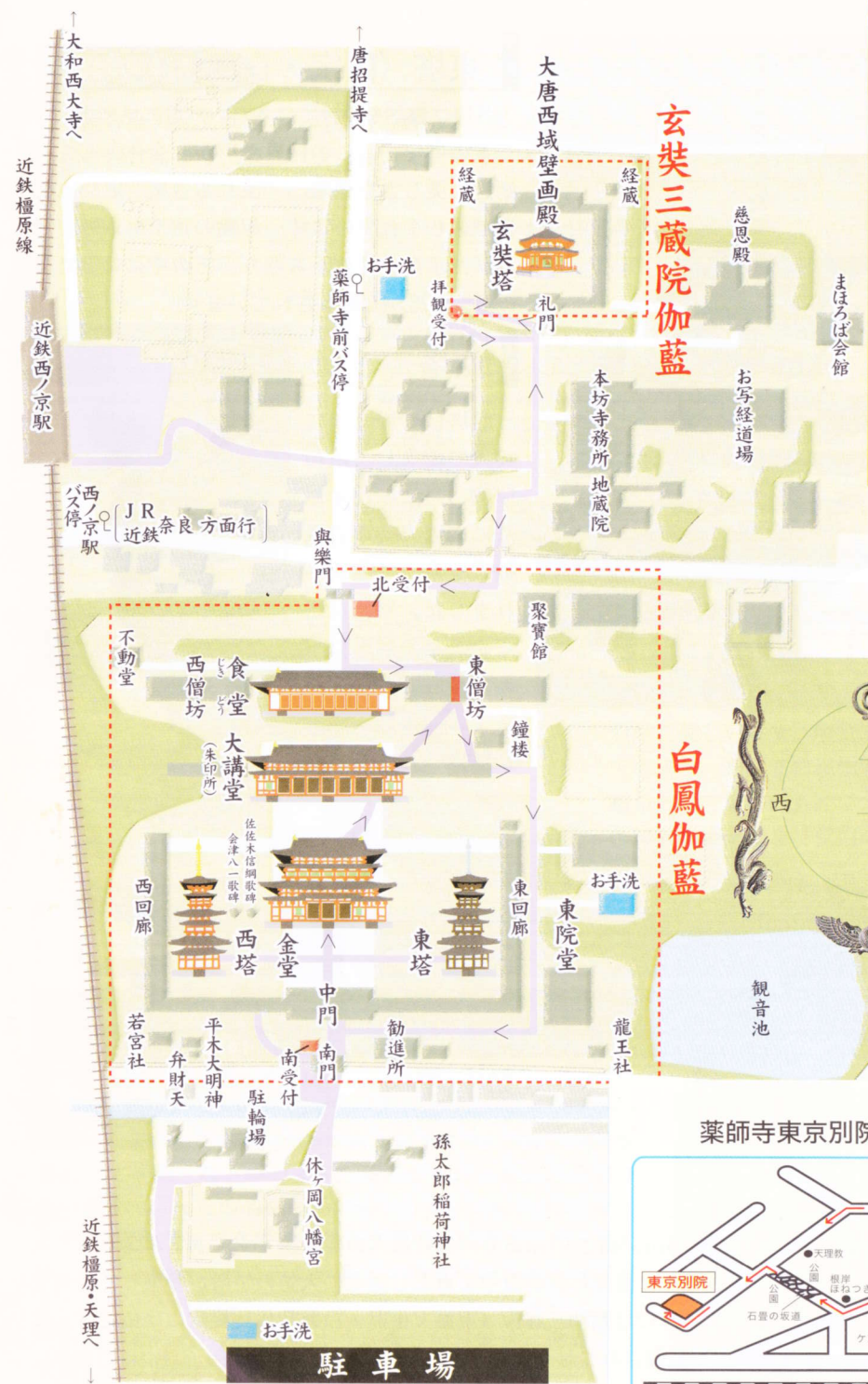
**観光に関するご相談は**

- 奈良市**
- 奈良市総合観光案内所 (0742)27-2223 柳生観光協会 (0742)94-0002
  - 奈良市観光センター (0742)22-3900 月ヶ瀬観光協会 (0743)92-0300
  - 奈良市観光戦略課 (0742)34-1111(代) 都祁行政センター (0743)82-0201
- 奈良県**
- 奈良県観光プロモーション課 (0742)22-1101(代)
  - 一般財団法人 奈良県ビジターズビューロー (0742) 23-8288
  - 奈良公園管理事務所 (0742) 22-0375

**交通に関するご相談は**

- JR西日本お客様センター
- 近鉄旅客案内テレフォンセンター
- 奈良交通お客様サービスセンター
- 奈良交通総合予約センター (定期観光バス・エアポートリムジン)

# 薬師寺伽藍図



**駐車場**  
 この駐車場内バス停に法隆寺⇌奈良間のバス路線が運行されています。

# 薬師寺

法相宗 大本山



## 薬師寺略縁起



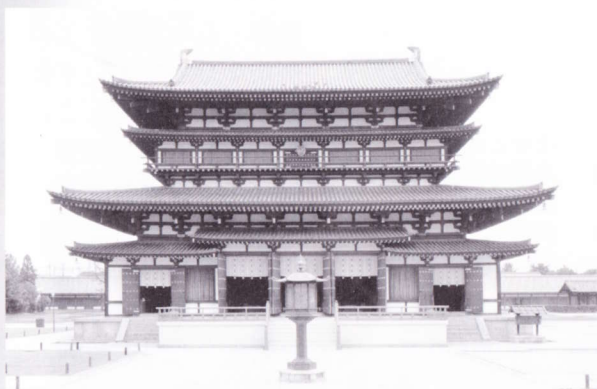
薬師寺は天武天皇により発願(680)、持統天皇によって本尊開眼(697)、更に文武天皇の御代に至り、飛鳥の地において堂宇の完成を見ました。その後、平城遷都(710)に伴ない現在地に移されたものです。

当時は南都七大大寺の一つとして、その大伽藍はわが国随一の荘美を誇りました。すなわち金堂を中心に東西両塔、講堂、回廊が立ち並び、なかでも裳階を施した金堂や塔のたたずまいの美しさは、「龍宮造り」と呼ばれて、人々の目を奪いました。

爾来1300年を経、この間、幾多の災害を受け、特に享禄元年(1528)の兵火では、東塔(国宝・白鳳時代)を除く諸堂が灰燼に帰しました。

昭和42年、高田好胤管主により薬師寺白鳳伽藍の復興が発願されました。失われた堂塔の復興を薬師寺の大悲願とし、お写経勸進によって、金堂、西塔、中門、回廊、更には平成15年3月に大講堂が復興され、白鳳伽藍の輪奐美として甦りました。

現代の日本人の浄らかな心の結晶が、堂塔伽藍のたたずまいとして未来の人々に継承されることを願い、薬師寺では皆様の更なるお写経のご結縁を願っております。



## 金堂

金堂は薬師寺縁起によると二重二閣、五間四面、瓦葺の建物で各層に裳階をつけた美しい堂で、龍宮造りと呼ばれています。薬師寺白鳳伽藍は、金堂を初めとして東塔の意匠ですべて統一されています。また「堂内の荘嚴は美をつくし、燈火がなくても金色に光り輝いた」と伝えられています。



## 薬師三尊像〈国宝・白鳳時代〉

薬師如来を中央に、向かって右が日光菩薩、左が月光菩薩、あわせて薬師三尊と申します。薬師如来は、東方浄瑠璃浄土の教主で、またの名を医王如来とも言い、私たちの身と心の病気を救ってくださる仏さまです。脇侍の日光・月光両菩薩は、動きのある美しい姿で、理想的な写実美を完成した仏さまといわれています。

あたかも今造られたかのような美しいお姿は、世界でも最高の仏像と仰がれています。

## 行事とお写経のご案内

1月 1日	修正会・国宝吉祥天開扉・新春写経会(1月3日まで) 玄奘三蔵院伽藍・食堂・西塔初層内陣公開(1月8日まで)
1月 4日	平成の吉祥天開扉(1月15日まで)
1月 15日	吉祥天にちなむお香とお茶の会
3月 1日	玄奘三蔵院伽藍・食堂・西塔初層内陣公開(6月30日まで)
3月 23日	お身拭い
3月 25日	修二会花会式(3月31日まで) 鬼追式(31日)
4月 中旬	最勝会(第3日曜日)
5月 5日	玄奘三蔵会大祭
8月 13日	盂蘭盆会(15日まで) 玄奘三蔵院伽藍・食堂・西塔初層内陣公開(15日まで)
9月 16日	玄奘三蔵院伽藍・食堂・西塔初層内陣公開(11月30日まで)
9月 中旬	八幡宮大祭(敬老の日)
10月 8日	天武忌・万燈会
11月13日	慈恩会(興福寺と隔年)
12月29日	お身拭い
12月31日	除夜の鐘・越年写経会

### ■奈良薬師寺

玄奘縁日	毎月5日	午後1時	法要と法話
薬師縁日	毎月8日	午前11時 午後1時	大般若経転読法要 縁日法話
弥勒縁日	毎月第3日曜日	午前11時 午後1時	法要 まほろば塾(要申込)

### ■東京別院

薬師縁日	毎月12日	午後1時	縁日法話
定例法話会	毎月第3、4土曜、第3、4日曜	本山僧侶法話 第3、4土曜午前10時半、第3、4日曜午後2時	

◆お写経道場(奈良・東京)午前9時～午後4時(受付)  
どなたでも、お写経していただけます(用具完備)

### おすすめ お写経の勸進

お経は、一文字書写するごとに仏様を一昧刻むのと同じ功德があるといわれています。

自らの手に筆をとり、お経を書写する浄業によって慈悲の心が生まれ、心の喜びとなります。ご結縁をおすすめします。

ご納経料	般若心経	1巻	2,000円
	薬師経	1巻	4,000円
	唯識三十頌	1巻	5,000円
	東塔大修理特別写経	1組2巻	10,000円

## 薬師寺奉賛会 ご入会のお願い

古い歴史と文化を有する寺の使命は、先人の美しいまごころの結晶である世界文化遺産の保存継承、修理復興、さらに仏ごころの種まきにあると存じております。そこで薬師寺ではより多くの皆様のお力を得まして、薬師寺の礎を固め、仏法興隆・白鳳伽藍完成・玄奘三蔵顕彰・心の復興などの諸事業を行ってまいります。どうか意のあるところをお汲み下さり、「薬師寺奉賛会」にご入会賜りますようお願い申し上げます。※年会費一口一万円です(更新は毎年5月です。)お問い合わせは、薬師寺奉賛会係まで

TEL 0742-33-6001

## 法相宗大本山 薬師寺

〒630-8563 奈良市西ノ京町457  
TEL 0742-33-6001  
FAX 0742-33-6004

URL: <http://www.nara-yakushiji.com>  
(最寄駅、近鉄橿原線西ノ京駅下車すぐ)

## 薬師寺東京別院

〒141-0022 品川区東五反田5-15-17  
TEL 03-3443-1620  
FAX 03-3449-5963

URL: <http://www.yakushiji.or.jp/>  
(最寄駅、JR山手線五反田 徒歩5分)



## とうとう 東塔 〈国宝・白鳳時代〉

各層に裳階をつけているため六重に見えますが、三重の塔です。この特異な形が、全体として律動的な美しさを保ち、“凍れる音楽”という愛称で親しまれています。相輪の頂上に取り付けられた水煙は4枚からなり、その中には24体の飛天が透かし彫りされています。

## さいとう 西塔

西塔は享禄元年に兵火で焼失し、昭和56年4月に453年ぶりに創建当初の白鳳様式をもって復興されました。華麗な西塔が長年の風雪に耐えた東塔と並び立つさまは、大変印象的な光景といえましょう。



## だいこうどう 大講堂

大講堂は、正面41m、奥行20m、高さ17mあり、伽藍最大の建造物です。講堂が金堂より大きいのは古代伽藍の通則で、これは南都仏教が教学を重んじ講堂に大勢の学僧が参集して經典を講讀したためです。大講堂の本尊には彌勒三尊像（重要文化財・白鳳時代）、後堂には仏足石・仏足跡歌碑（国宝・天平時代）が安置されております。仏足石の両脇に釈迦十大弟子（中村晋也作）も祀られております。

## とういんどう 東院堂 〈国宝・鎌倉時代〉

東院伽藍は養老年間に吉備内親王が元明天皇の冥福を祈り、発願建立されたものです。奈良時代の位置は東側（現在の観音池）にあり、南を向いて建てられていましたが、天禄4年（973）の火災で焼失、弘安8年（1285）現在の地に建てかえられた、国宝の建物です。奈良時代は土間が通常ですが、板床を敷き東院禅堂と呼ばれたことを考えると、鎌倉時代には禅の影響があったと思われます



## しょうかんぜおんぼさつぞう 聖観世音菩薩像 〈国宝・白鳳時代〉

このお像の若さの中に漂う気品と端麗さは、文字通り「祈りが昇華してゆく崇高なお姿」といえましょう。肩のあたりまで幾筋かにわかれて下がる垂髪、二重の首飾り、透きとおるような衣服、花びらのような繊細で美しい指の動き、そして直立不動の直線的な姿勢。これらは、初唐時代に中国を通して流れてきたインドのグプタ王朝の影響を強く受けています。



## げんじょうさんぞういん がらん だいたうさいいきへき がでん 玄奘三蔵院伽藍・大唐西域壁画殿

玄奘三蔵院伽藍中央の玄奘塔は、法相宗の始祖・玄奘三蔵のご頂骨を真身舍利として奉安し、須弥壇には玄奘三蔵訳経像をお祀りしています。また、大唐西域壁画殿は、平山郁夫画伯が30年の歳月をかけ完成された玄奘三蔵求法の精神を描いた壁画を絵身舍利としてお祀りするものです。



# じきどう 薬師寺 食堂 (平成 29 年 5 月落慶)

食堂は僧侶が齋食をするための建物で、僧侶約300人が一堂に会する規模であったと発掘調査により判明しています。

『薬師寺縁起』によると食堂の規模は東大寺、大安寺に次ぐ大きさとされており、その記録がほぼ裏付けられています。

創建当初の建物は天平2年(730)頃に建てられたとみられ、天禄4年(973)に焼失しました。その後、寛弘2年(1005)に再建されましたが、再び失われました。  
(年代不明)

新たに復興した食堂は、建物外観は奈良時代の意匠を凝らした作りとし、内部は現代技術を活用することで広い空間を確保し、食堂を多目的に利用することを想定しています。

堂内には田淵俊夫画伯により描かれた食堂ご本尊『阿弥陀三尊浄土図』を中心に、全長約50メートルにわたる壁画『仏教伝来の道と薬師寺』が奉納されています。

田淵俊夫画伯筆『仏教伝来の道と薬師寺』は中国から日本、飛鳥から平城京薬師寺までを、また玄奘三蔵院伽藍内の平山郁夫画伯筆『大唐西域壁画』は中国とインドを結ぶ玄奘三蔵取経の旅が描かれ、二つの大壁画は下図①※左側にある長安大雁塔で結ばれています。



食堂内配置図